

幼児期の「集中力向上」に関する研究

○梅澤杏奈(新潟大学大学院)、菅原知明(新潟大学大学院)、村山敏夫(新潟大学)

はじめに

子どもたちは「運動遊び」の中で社会性、集中力、感情のコントロール、協調性などを身につけて社会に出る準備をしていく。先行研究から、運動は脳を活性化させて、認知機能を向上させるということが言われている。

社会性

集中力

感情の
コントロール

協調性

研究背景・目的

幼児期において身体活動による脳刺激が認知機能や集中力を向上させるとの研究報告がある。しかし、運動遊びの集中力向上への効果についての研究成果は少ない。保育園での遊びは鬼ごっこや縄跳びなどの「動的遊び」と折り紙やお絵かきなどの「静的遊び」がある。静的遊びへの効果については先行研究が見当たらない。そこで、動的遊び及び静的遊びが集中力向上にどのような効果があるのかを検証することは意義があると考えた。



動的遊びと静的遊びによる集中力への効果を比較することで、集中力への効果を検証することを目的とする。

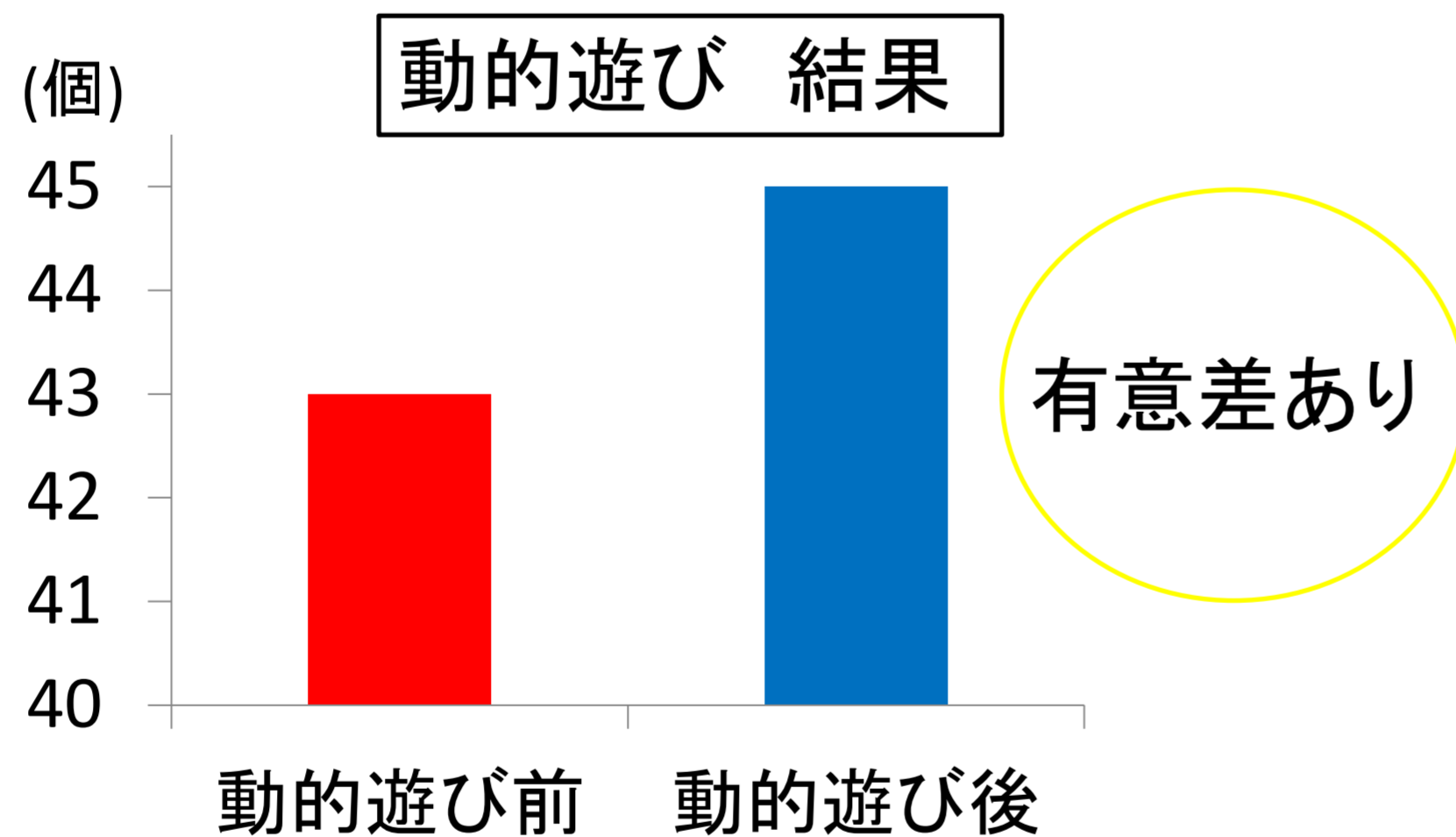


研究方法

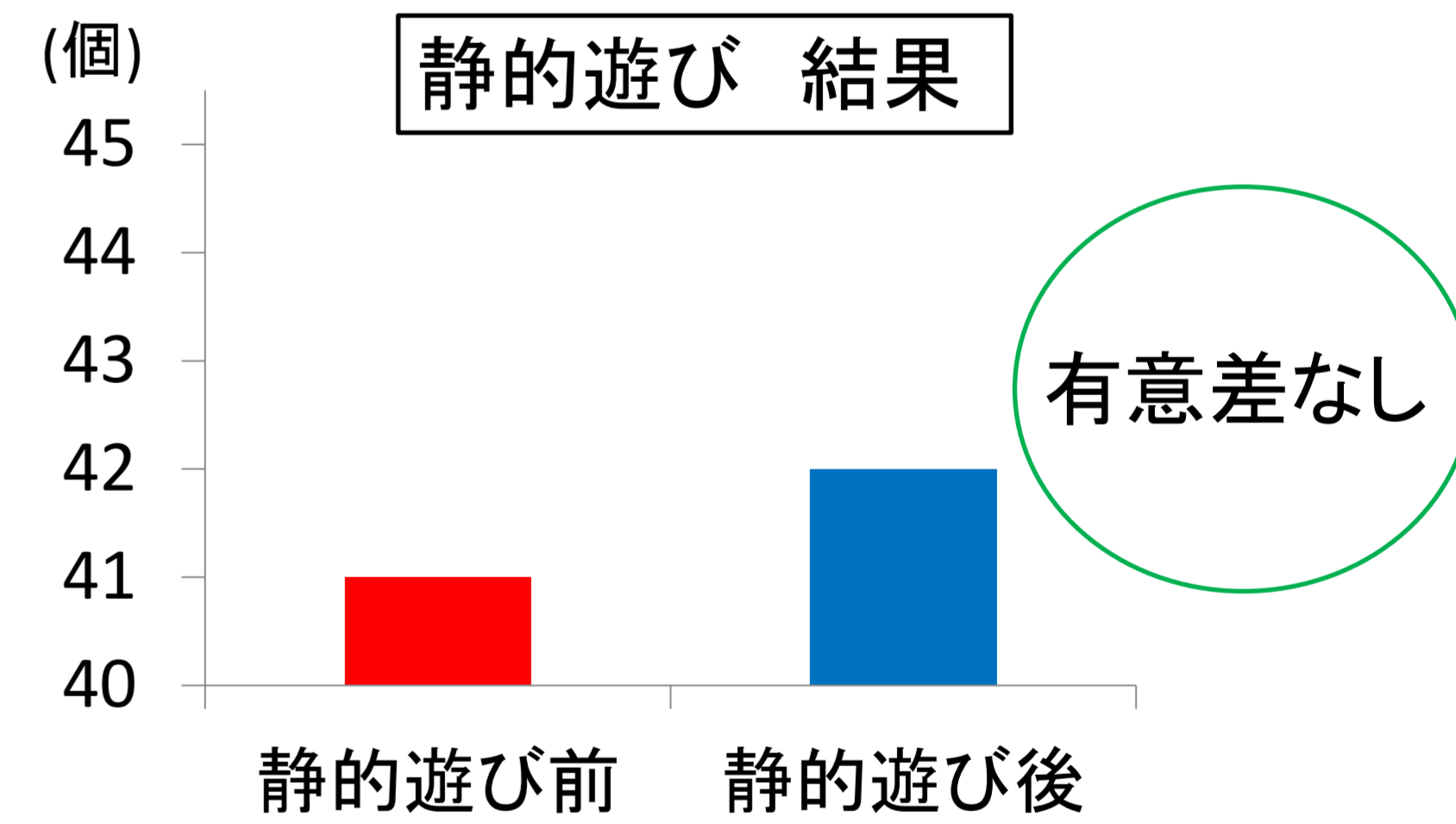
①対象者 新潟市S保育園 園児28名(5歳児16名、4歳児13名)

②実験プロトコル

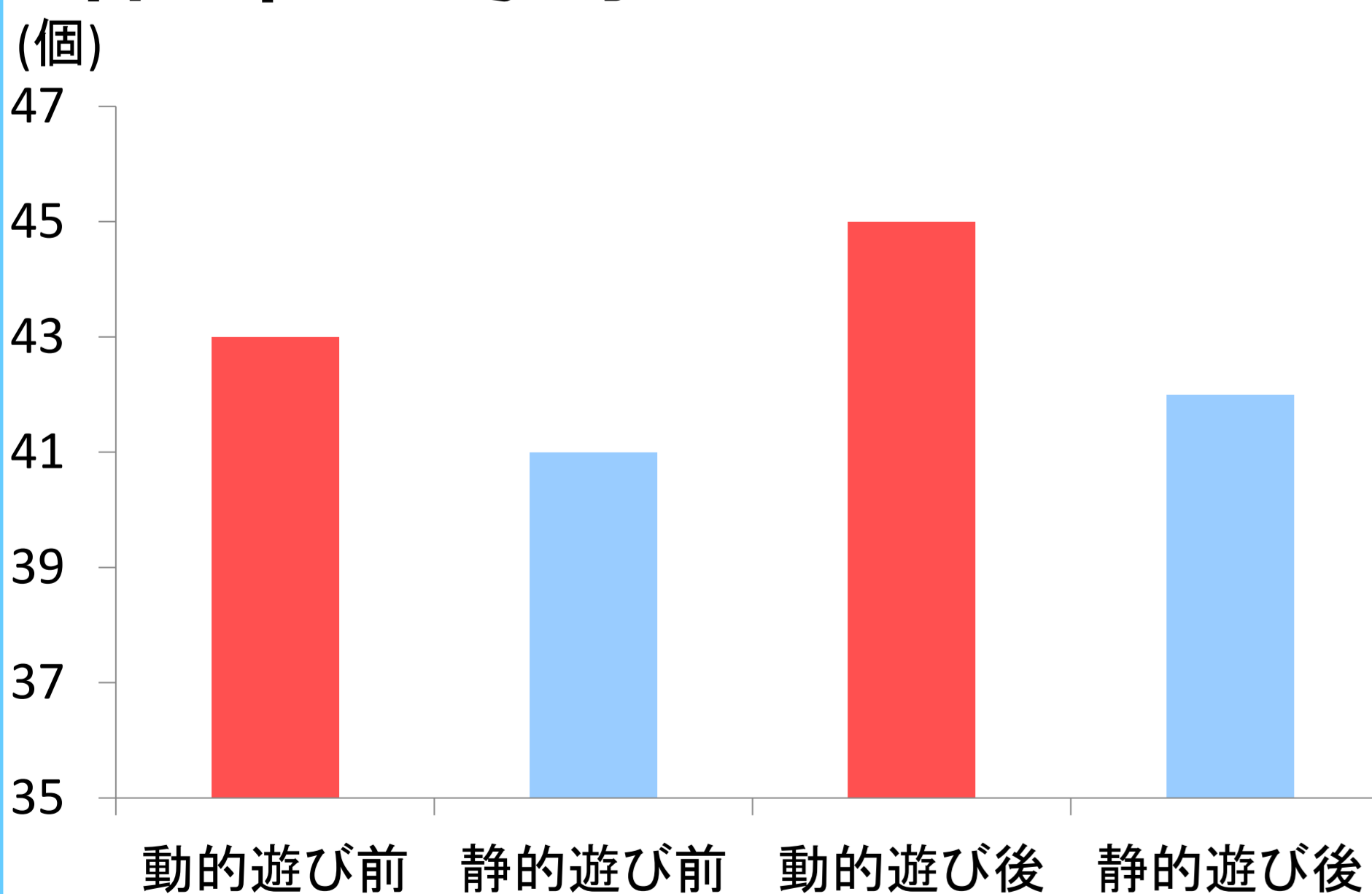
動的遊び(鬼ごっこ)



静的遊び(習字)



結果・考察



「動的遊び」と「静的遊び」での集中力課題の結果を比較してみたところ、「静的遊び」では、「動的遊び」よりも集中力の向上は見られなかった。

今回の実験で「静的遊び」は習字を行った。習字を選択した理由は、新潟市S保育園で日常的に行っていることであり、また私自身が習字で集中力が向上するかどうか興味を持ったためである。

まとめ

今回は「動的遊び」・「静的遊び」による集中力への効果を比較することで、集中力への効果を検証することを目的としていた。

「動的遊び」は先行研究にもある通り集中力は向上した。「静的遊び」はおはじきの個数は増えたものの「動的遊び」よりは集中力の向上が見られなかった。そのため集中力向上には「動的遊び」が良いということが示唆された。

今後の課題

最後になぜ「静的遊び」での集中力が向上しなかったのか。その要因として以下のことが考えられる。

(1)習字による疲労 (2)練習効果 (3)曜日による影響

今後はこれらのことを踏まえ、集中力向上に「静的遊び」はどのような影響を与えるのかを研究していきたいと考えている。また今回は習字で行ったが、ほかの「静的遊び」ではどのような結果が見られるかを検証していきたい。